

# 連続講座とパネル展 テレジンの子どもたちから

“テレジンを語る会いばらき”は、2011 年秋「テレジン収容所の小さな画家たち展」を開催し、その後も継続してテレジンを語ることで平和を考えて行こうと活動をしています。このたび、テレジンの子どもたちについて、著作をだし、講演活動等を繰り広げている林幸子さんと石岡史子さんをお招きし講演会と展示会を企画しました。林さんは、テレジンのユダヤ人強制収容所で子どもたちがナチス・ドイツに隠れて出していた雑誌『VEDEM』を翻訳し紹介した人です。また、地元土浦市の出身でもあります。今回は、二回に渡って、土浦市で講演をしていただきます。石岡史子さんは、『ハンナのかばん』の訳者であり作中人物です。国内外の小中学校や子ども劇場などでの訪問授業やワークショップ、パネルの貸出しなどを行ない、命と人権の教育活動を年間 100 ヶ所で行っています。わたしたちは、このお二人の平和の使者を迎えて、参加者と共に現在の問題として「テレジンの子どもたちから」平和の問題を考えて行きたいと思います。

## 《林幸子さんのプロフィール》

土浦市生まれ。土浦一高、法政大卒。絵本くらぶ「ちいさな家」代表。チェコ共和国愛好者でつくる「チェコ倶楽部」代表。チェコにあるテレジン・ユダヤ人強制収容所の子どもたちの雑誌「ヴェデム」についての「テレジンの子どもたちから」を 2000 年に上梓。その他著書に、共著「キュービットは二年生」（偕成社）、「よばれなかったたんじょう会」（ポプラ社）、「じぶん色に燦めく女性たち」（きりん出版）、共訳「プラハ日記」（平凡社）など。手作り絵本で読売新聞奨励賞、毎日新聞童話新人賞、リブラン創作童話最優秀賞、朝日新聞埼玉文化賞詩部門準賞など受賞。埼玉県在住。



「L417」1号室のなかまコトウチュさんと林さん



## 《石岡史子さんのプロフィール》

1995 年イギリス・リーズ大学大学院開発学部修士課程修了後外務省総合外交政策局国連政策課勤務。1998 年 10 月より NPO 法人ホロコースト教育資料センター代表。児童書『ハンナのかばん』（ポプラ社）の訳者であり作中人物。同書は第 49 回青少年読書感想文全国コンクール課題図書に選定。アンネ・フランク、杉原千畝、「ハンナのかばん」などを題材にして、国内外の小中学校から大学、PTA や教員等大人まで、これまでに 1,000 ヶ所以上で平和と人権の訪問授業・セミナーを行っている。「エーディトここなら安全よ」（ポプラ社）訳者。2010 年より、愛知教育大学非常勤講師。2004 年カナダ・ヨーク大学より名誉博士号を授与される。



ハンナの兄ジョージ・ブレイデイと石岡さん



連続講座

3/17(日)

「テレジンの子どもたちから」

4/13(土)

「テレジンの子どもたちのその後」

5/11(土)

「生きるための優しさと強さを育む」

パネル展示

「生きのびた少年ジョージの物語」

「プラハ・テレジン・アウシュヴィッツ」

5/8(水)～12(日)

つくば市民ギャラリー 入場無料



## テレジンとは

テレジンは、第 2 次世界大戦中のナチス・ドイツの強制収容所のひとつでチェコにありました。テレジン収容所には 15,000 人のユダヤ人の子ども達がありました。子ども達は 10 歳になると家族から離され、「男の子の家」と「女の子の家」で暮らさなければなりません。寂しさと空腹ときびしい労働、死への恐怖に怯えながらも、そこでは子どもたちの自治会活動が行なわれ、雑誌が発行され、文学や絵画の授業が行なわれ、音楽会や子どものオペラ「ブルンジバール」も開催されました。もちろん、ナチスに隠れての“秘密の学校”でしたが、勇気ある大人たちの存在が子どもたちを人間として大きく育てました。しかし、子ども達のほとんどはアウシュヴィッツに送られ、ガス室で殺されたのです。生き残ったのはわずか 100 人でした。

◎駐車場・土浦一高は学校内の駐車スペースに停めてください。  
それ以外の会場は付近の有料駐車場（買い物割引あり）にどうぞ。